令和7年度笛吹市社会教育委員の会議兼公民館運営審議会
委嘱状交付式及び第1回会議 会議録

日 時：令和7年6月10日（火） 午後3時30分～午後5時

場 所：笛吹市役所本館 3階302会議室

出席者：◇社会教育委員（敬称略）

堀内智恵子、霜村文晴、渡邊真史、田中親吾、坂野修一、内田勝也
加々美恭子、金子津多恵、中楯文仁、石倉絹子、中村久美子、吉岡弘子
原百枝

◇教育委員会

望月教育長、手塚教育部長、角田文化財課長、松本図書館長

◇事務局

早河生涯学習課長、生涯学習担当 河西リーダー、日下、角田
欠席委員（敬称略）：立川誠、廣瀬志保

【進行：生涯学習課長】

次第1 開会のことば

次第2 委嘱状交付

次第3 教育長あいさつ

<教育長>

皆様、こんにちは。本日は、忙しい中出席をいただき、ありがとうございます。皆様方には、日頃から笛吹市の社会教育、生涯学習の充実に向け、力添えをいただけることに、深く感謝を申し上げます。委嘱状を交付しました15名の委員の皆様方は、それぞれの分野で幅広い知識と経験をお持ちの方々です。本市の社会教育、生涯学習の振興のために、経験と知恵をいただきますよう、よろしくお願ひします。今、人生100年時代と言われるように、人々のライフスタイルは大きく変化し、生涯に渡る学びの重要性が高まっています。年齢や経験に関わらず、誰もが自身の興味・関心に基づき、豊かな学びを求める時代となりました。

このような時代の変化を踏まえ、「学びあう 支えあう 高めあう 地域力」を基本理念に、第三次笛吹市社会教育計画を策定しました。計画では、市民一人ひとりの学びのニーズに応え、多様な学びの機会を提供することで、活力ある地域社会の実現

を目指しています。近年では、地域課題の解決や地域活性化に貢献する人材育成が重要視されています。本市では、地域住民が主体的に学べるよう、地域について学び、考える講座や、趣味を通じて交流を深める講座など、さまざまなテーマで多様な講座を開催しています。市民の皆様が、生涯に渡って学び続ける志を持ち、そして、学び続けることができるよう、今後も充実した学びの環境づくりに努めていきたいと考えます。皆様方には、社会教育の円滑な推進のために、市民の代表として、貴重な意見や提言を賜り、共に豊かな学びの環境づくりを進めていただきたいと思います。助言や支援を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

次第4 委員自己紹介・職員紹介

次第5 会議録署名委員の指名について

議長選出まで議事進行を教育長が行い、教育長から笛吹市社会教育委員会議運営規則第2条第2項に基づき、加々美恭子氏が会議録署名委員に指名された。

次第6 (1) 令和7年度役員選出について

笛吹市社会教育委員会議運営規則第2条で議長及び副議長は委員の互選によって定めると規定されていることから、委員の意見を求めたが、意見がなかったため事務局から議長に石倉絹子氏、副議長に加々美恭子氏を提案し、承認された。

議長、副議長以外の役員について、委員から意見を求めたが、意見がなかったため事務局から、山梨県社会教育委員連絡協議会代議員に一宮町の中楯文仁氏、石和町の加々美恭子氏。明るい選挙推進委員に内田勝也氏、金子津多恵氏。地域づくり市民活動応援補助金選考委員に加々美恭子氏を提案し承認された。

次第6 (2) 令和7年度事業予定について

生涯学習課、文化財課、図書館から事業報告の上、質疑応答を行い報告内容について了解をいただいた。

【質問意見等】

< 委員 >

2点ある。1点目は、市民講座の定員数が申込数を超えた時の対応を教えてください。2点目は、2年前の会議の時に、「わが町の八月十五日展」について、以前は8月末に終了してし

まうことに、学校の 2 学期が始まって子ども達が見学できるように、開催期間延長の要望をした。それ以降、要望どおり開催期間が延長してくれたことにととても感謝している。

<議 長> 市民講座に関連して、「あしがわ自然体験」の定員数が超えたことについても同様に教えてもらいたい。

<生涯学習担当> 定員数を超えた講座は、講師と再交渉を行い、会場の規模を考慮して可能な限り多くの方に参加してもらえるようにしている。例えば、20 人の定員数のところを 23 人に調整をしている。料理系の講座は、調理器具の数に限りがあるので、その場合は抽選で市内在住の方を優先して受講者を決定している。他にも、午後開催の講座を、午前の時間帯の枠を増やすなど対応している。あしがわ自然体験については、今年は 94 組の応募があり、予定していた定員数は 30 組であったが、急遽 40 組に増やし、残りの 54 組については抽選の上外れとした。ちなみに、去年は 2 日間の日程であったが、雨天により中止となった。魚のつかみ取りで大量の魚を用意したが余った経緯があったので、今年は 1 日開催としたことを報告する。

<委 員> わが町の八月十五日展に関連して、今年は戦後 80 年を迎えることから、山梨県遺族会では特別な企画を考えている話を聞いた。毎年開催されている市の展示会は、同じ内容だと感じる。今年は 80 年の節目として、特別な企画を考えているか。

<文化財課長> 私が文化財課に配属となって 2 年目になるが、同じ内容の展示会であることから、被爆被害の体験談や都留高校の語り部の生徒を呼んで、話を聴いてもらう企画を考えているところである。

次第 6 (3) 山梨県各協議会の報告について

事務局からの説明後、質疑応答を行ったが、質問等が無かったため、報告内容について了解いただいた。

次第 6 (4) その他について

事務局から社会教育委員の活動についてと社会教育委員の会議及び公民館運営

審議会の概要について説明を行った。図書館から前回会議時の利用者人数等についての質問があり、資料に沿って説明を行った。

【質問意見等】

- <議長> 八代図書館の利用者数が、他図書館と比較して少ないと感じる。少ない要因と利用状況について詳しく教えてもらいたい。
- <図書館長> 八代図書館は、規模が小さく固定の利用者が多いのが特徴である。利用者を増やす取組みとして、地元の保育園を対象に利用カードを作成して子ども達に利用してもらうことを実施している。新型コロナウイルス感染症の前後と比較して、読書や学習のための利用者は増えているが、本の貸出数やイベント数は横ばい状態であり変化がない状況なので、利用に結びつくように考えていく。
- <委員> 石和図書館のイベント数がとても多いことに驚いた。年間に換算すると4日に1回のペースで開催されていることと、参加人数も平均で60人前後であることが分かった。八代図書館のイベントが少ない理由を教えてもらいたい。
- <図書館長> 石和図書館は、平日4人体制で行っている。石和図書館は、他の図書館と比較して人数が多いので、窓口業務を行いながら、イベント開催が可能なので必然的に回数が多い。八代図書館の場合は、1人体制であることから、イベント準備や通常業務に必要な人数を揃える時には、他の図書館から職員を派遣するなど調整が必要のため、人員体制の部分が要因である。
- <委員> 八代図書館がある八代総合会館が、来年3月まで改修工事に入ることを聞いているが、八代図書館が職員1名の配置としていることに驚きを感じた。施設がリニューアルすることに伴い、私としては、図書館の人員配置を見直してもらえることを期待したい。
- <議長> 八代総合会館の改修について、八代図書館へ直接出入りができる出入口が無いことについて、図書館を利用する場合は、玄関から靴を履き替えて図書館に入ることになっているので、

初めて利用する方は不便に感じる思う。利便性を踏まえ自由
に出入りができるように改修しても良いと思う。

<生涯学習担当> 改修工事で図書館出入口の改修は予定していない。改修内容は、施設全体の照明が暗いとの意見があり、照明器具の LED 化と空調設備の調子が良くないため設備機器の更新を予定している。利用環境の快適性は改善されると見込んでいる。

<委 員> あしがわ自然体験の内容を聞いて、魚のつかみ取りや火起こし体験など芦川の自然の中で体験してもらう取組みは十分理解できる。芦川小学校でも総合学習の授業で、芦川の魅力を情報発信できるように勉強に取り組んでいることを報告する。多くの人達が芦川を訪れてもらえるように今後も事業を継続してもらいたい。

<生涯学習担当> あしがわ自然体験は、好評である事業であり、芦川の自然を体験できる魅力あるイベントである。芦川小学校の児童からも申込みがあったので、今後も事業を継続できるようにしていきたい。

<委 員> 辻邦生氏のことを親戚から話を聞いて、大変著名人であることを知った。辻氏の本籍地が春日居町であることから、友人と辻邦生に関する看板を拝見して改めてすごい人物であることを再確認した。友人と話をした中で私としては、笛吹市にあまり馴染みがないことを感じた。今回、「生誕 100 年 辻邦生展」を開催するが、それまで辻邦生氏に関する紹介を取上げなかったのか。

<文化財課長> 私も辻邦生氏のごことは、あまり認識していなかった。昨年あたりに学習院大学から話があり、春日居町の地にゆかりがあることにちなんで、今回のイベントを企画した。県立文学館でも、辻邦生氏の展示会を開催しており、内容が被らないように工夫を行っている。

<委 員> 春日居町には、他にも地方病の撲滅に貢献した吉岡順作氏を取り上げてもらいたいことと、八代町出身の早川徳次氏も素

晴らしい人物であることを発信してもらいたい。

- <委 員> 文化協会で5年前に辻邦生氏のイベントを「銀杏散りやまず」の作品を取上げ、県から学芸員を呼んで学習会を行い、文化協会のイベントとして町民を呼んで講演会を開催した。一部の町民の方には知ってもらっているが、たくさんの方に知ってもらうには課題がある。私が知っている国府の道や自然が出てくるので多くの方に参加してもらいたいと思った。
- <図書館長> 図書館で開催する「辻邦生生誕 100 年講演会」について、学習院大学から春日居図書館に作品を寄贈していただいた本の中に、春日居を訪れたことをきっかけにした作品である「銀杏散りやまず」があり、その朗読や作品の舞台裏を講演会で話をしてもらうイベントになっている。多くの方に、参加してもらえるように計画している。図書館を通して笛吹市にゆかりのある著名人を広く周知していきたいので、情報があつたら提供してもらいたい。
- <文化財課長> 以前から著名人の特別展を開催してもらいたいとの意見があり、今年から笛吹市に関連がある著名人の特別展を計画していくことで、今年度は辻邦生氏の特別展を行うことになった。来年のことは具体的なことは決まっていないので、春日居に限らず笛吹市に関連がある方でも良いので、情報提供してもらいたい。
- <委 員> 文化協会の話題があつたので、意見として述べさせてもらう。文化協会の中には、各町の歴史的風土や人物などについて研究している活動部もある。文化協会や図書館などが一つにまとまって、各町に巡回して特別展を行う企画があつてもよいと思う。小中学生や若い世代に歴史的文化を学んでもらう機会となるので、文化協会も協力していきたいと思う。

次第7 閉会のことば